

第2回 川越市総合教育会議 会議要旨

- 1 開催日時** 令和4年1月26日(水)
午前10時30分～午前11時50分
- 2 開催場所** 川越市役所東庁舎2階 教育委員会室
- 3 出席者** 川越市長 川合善明
教育長 新保正俊、教育長職務代理者 梶川牧子、
委員 長谷川均、委員 嶋野道弘、委員 佐久間佳枝

4 会議の概要

1 開会

2 市長挨拶

おはようございます。本日は令和3年度第2回川越市総合教育会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

この会議は、首長と教育委員会が教育行政・教育政策の方向性を共有し、一致して推進するための、貴重な意見交換の場となっております。

これまで、川越市の教育大綱の策定、学校ICT関係、小中学校の適正規模・適正配置など、色々な問題について幅広く意見交換をさせていただきました。

限られた時間ではございますが、本市の教育行政にかかる課題を共有し、子ども達の教育環境を一緒になって整えられるよう、皆さまと努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

3 協議事項 (●…市長 ◎…教育長 ○…教育委員 ▲…事務局)

▲ 議長については、「川越市総合教育会議設置要綱」第4条第1項の規定に基づき、市長にお願いすることになっているが、より活発な意見交換をする観点から、形式的な進行を事務局側で進めることも考えられるので、まずは、その点についてお諮りしたい。

● 提案があったので、進行を総合政策部長に進めていただきたいと思います。いかがが。

<異議なし>

● それでは、総合政策部長の進行で進めていただきたいと思います。

(1) 川越市立川越高等学校について

▲ 協議事項「川越市立川越高等学校」について、教育長から説明をお願いしたい。

◎ 本市の教育の特色の一つである川越市立川越高等学校（以下「市立川越高校」）について、将来構想を協議していただき、令和8年の創立100周年に向けて活かしていきたい。

資料1の「川越市立川越高等学校の長期的ビジョンについて」（以下「長期的ビジョン」）は、川越市立川越高等学校教育審議会が教育長の諮問を受けて、平成27年度に取りまとめた市立川越高校の将来構想に関する答申である。

教育委員会では、市立川越高校の創立100周年を迎えるにあたり、どのような学校にしていくのかを具体化する将来構想の検討を進めている。今まで思うように検討を進められなかったところもあるが、令和4年度には川越市立川越高等学校教育審議会を再度設置し、「長期的ビジョン」とこれまでの取組の成果を踏まえ、将来構想について検討する予定である。

資料2は、現中学3年生向けに作成した学校案内である。各学科の案内等の他、部活動の実績を過去3年分掲載している。野球部、女子バレーボール部を筆頭に多くの部活動が、県大会の上位入賞や、関東・全国大会への出場を果たしている。近年では女子バスケットボール部も関東大会に出場するなど活躍している。

資料3は、卒業後の進路に関するものである。令和2年度卒業生の進学と就職の比率は、普通科では90対10の比率、商業系学科では55対45の比率となっている。令和3年度入学生の入学時点の進路希望調査における進学と就職の比率については、普通科では97対3の比率、商業系学科では77対23の比率となっており、進学希望者が多い状況となっている。進学先としては、普通科、商業系学科ともに四年制大学を目指す生徒が多く、生徒・保護者からは進学指導が期待されているものと受け止めている。大学の合格状況としては、難関私立大学にも合格者を出しており、生徒・保護者の期待に応えられていると考えている。入試の方法では、推薦入試の利用が多い傾向にあり、今年度の大学入学共通テストの受験者数は40数名である。生徒・保護者は、現役志向が高く、多くが推薦枠を使って入れる大学を選択している状況である。難関大学を目指させるには、1年生の時から意識付けが必要であり、今後の課題であると考えている。一方で就職状況については、令和元年度・令和2年度卒業生の実績として、商業系学科の生徒を中心に、国家公務員、地方公務員や金融機関等に就職しており、こちらも生徒・保護者の期待に応えられていると考えている。これには、川越商業高校時代の就職指導のノウハウが伝統として受け継がれていることや、卒業生の多くが市立川越高校生の就職を支援してくれていることが大きい。今後は、就職実績を支えてきたベテラン教員の多くが定年退職等を迎えるため、ノウハウの継承が課題となると考える。

資料4は、志願状況に関するものである。毎年10月1日時点の中学3年生への希望調査では、学力に関係なく行きたい高校に希望を出す傾向があるが、この調査で、市立川越高校の普通科は、例年3.5倍から4倍程度の倍率で6年連続県内1位となっており、県下公立高校で一番人気が高い高校と言っても良いと思う。最終的な入試の倍率でも、市立川越高校は、普通科、商業系学科ともに県平均を上回る高い倍率を維持している。ま

た、市立川越高校は市内生が3割、市外生が7割という状況があるが、市内の公立高校は市立川越高校に限らず、周辺市町からの市外生が多い状況がある。

資料5は、検定等の取得状況に関するものである。全商検定（全国商業高等学校協会主催の検定で、簿記検定、電卓検定、ワープロ検定、表計算検定など、8種目がある。）については、3種目以上で1級に合格した生徒の人数を県内の商業高校で競い合っており、検定挑戦へのモチベーションとなっている。この分野で市立川越高校は常に県内上位に位置しており、商業系学科の生徒の努力と教員の高い指導力の結果であると評価している。その他に、国家資格のITパスポート試験は、社会人や大学生が挑戦する情報処理の国家資格であるが、市立川越高校の生徒が今年度は4名合格しており、合格者のうち1名は1年生である。学校側では全員が受ければ半分程度は合格できるのではないかと考えているが、高い受験料がネックとなっているということである。

資料6は、総合的な探究の時間のカリキュラムである。今後、探究学習をさらに充実させ、教科横断的・総合的な学習を行うことを通して、より適切に課題を設定し解決できるようになることを目指している。現在も様々な講演会を実施するなど学年ごとにテーマ設定をして課題に取り組んでいるが、より充実したものにしていくことが課題であると考えている。これを充実させることは学力向上にも繋がるのではないかと考えている。

資料7は、地域特別選抜に関するものである。地域特別選抜制度は、地域のリーダーとなる生徒の育成、また、川越市に誇りを持ち、広く世界で活躍する人材を輩出することを目的として実施している制度である。川越市内の中学3年生が出願でき、全定員の10パーセント程度の枠としている。この制度は、意欲的な市内生の入学による市立川越高校の活性化に貢献していると考えている。

資料の説明は以上とさせていただきます。

- ▲ 教育長から、提案理由を含めた内容を御説明いただいたが、各委員からの御意見等があれば挙手をお願いしたい。
- 確認だが、ITパスポート試験の受験料が高いという説明があったが、受験料はいくらかかるのか。
- ▲ 手元に資料が無いので、正確な金額はわからない。
- 入試の倍率が高く、在校生や保護者の満足度も高いということは、大変良いことだと思う。

資料3からは、商業系学科を含めても令和3年度入学生の9割以上が進学を希望している状況が読み取れる。また、日本の大学進学率はOECD加盟国の中でも、高いとは言えない状況であることから、今後上がっていくとも考えられる。このようなことから、市立川越高校は、元が商業高校であったということにこだわらず、世の中の状況にあわせて進学中心の学校にしていくべきであると思う。

川越市で市立高校を設置していることのメリットについては、市が求め得る人材を輩出することができる点が大いだと思う。このメリットを活かすためには、卒業生が大学

卒業後に川越市に戻って貢献したいと思うようなまちにすることが大切なので、市では企業誘致等に積極的に取り組むなどにより、魅力的な就職先を確保していくことが必要だと思う。

中高一貫教育については、資料1の中で川越市立川越高等学校教育審議会の検討結果として「後期中等教育においては普通科を中心とした検討にならざるを得ないため、本審議会では、本市として伝統のある商業教育を活かしたビジョンを検討する観点から、採用しないこととした。」とされているが、私立では中高一貫教育で成果を上げている学校が多いということも踏まえ、是非検討を進めて欲しい。かつての商業学校では、小学校卒業後の4年から5年間で商業教育を行い素晴らしい人材を輩出していた。これは現在の中高一貫教育に近いものであったと言えると思うので、培ってきた伝統とも合うのではないか。

県立高校と異なる市立川越高校の特色については、スポーツ学科や、外国語学科等の県立高校では設置することが難しい学科を設置することができれば面白いと思う。

- 市立川越高校は、これまでの取り組みで多くの実績を上げているので、これまでの成果や利点を市立川越高校の強みにするためにどうすれば良いかを考えてみたいと思う。

まず、検定試験合格者数が県内上位であることは、目に見える成果であり強みであると思う。また、卒業生が地元で多く活躍しており、学校を支援する体制ができていることもこれまでの成果である。このような支援体制を後援会としての関わりに留めずに積極的にカリキュラムにまで関わってもらうことで強みを生かすことになるのではないか。

また、教員が商業高校時代の就職指導のノウハウを持っていて、就職実績も良い。ベテランの教員が退職する前に引き継いでいかなければいけないと思う。

このような素晴らしい実績がある一方で、「総合的な探究の時間」の内容は、残念ながら「探究」とは言えないものであり課題であると思う。令和4年4月から高校の学習指導要領は大きく変わる。新しい学習指導要領では、学科等に関わらず、地域や高等教育機関、行政機関、民間企業等と連携・協働しながら、各高校において地域や生徒の実態にあった探究学習を実施することが重要であるとされている。このことから、高校の3年間を、大学へ行くための通過点として捉えるのではなく、3年間でどのような経験をさせ、どのような能力を育てるのかという視点を持ち、将来地元で働く生徒達が実社会での経験を積めるようにすることも考える必要があると思う。例えば、市役所とタイアップして川越市の観光について一緒に考えることや、地域の人材を大いに活用して実際の経験をさせるということも取り組むべきではないかと思う。

また、中高一貫教育の検討も課題である。もっと積極的に検討して、市内の中学校から一定の割合で入学できるようにしても良いのではないかと思う。

- 資料からは、生徒、保護者ともに進学への希望が年々高まっているということが読み取れるが、進学を希望する生徒の中には、周りのみんなが進学するからというような消極的な理由で進学を希望する生徒もいるだろうと思う。そのような生徒のモチベーションを高め、卒業までにしっかりとした実力をつけさせることが高校の大切な役割だと思うが、これには教員が固定化していることがマイナスに働いていると思う。市内には多

くの高校があるので、互いに連絡を取り合うことで市立川越高校の教員が刺激を受ける機会をつくることができなからうか。あるいは、小中学校の教員が市の教育委員会に出向しているように、市立川越高校の教員もそのような立場から教師の仕事を俯瞰できるような機会をつくれなからうか。

次に、進学ニーズが高いので短大等を市で設置できると良いのではないか。大きな費用が必要となるので難しいと思うが、例えば、商業系学科を5年間でプロフェッショナルを育てる高専のような仕組みにすること等も考えられるのではないか。

また、3つの学科の違いをよりはっきりと打ち出した方が良いと思う。商業系学科を受験する生徒の中には、普通科が第一希望だが学力面から合格が難しそうなので商業系学科を受験するという生徒もいるという印象がある。学科の違いをはっきりさせるために、商業系学科は普通科と異なる側面で力を付けられるように、例えば、卒業時点で「TOEICで何点以上取れるようにする」、「具体的にこの資格を取れるようにする」ということを高校の内外に打ち出すことなどにより、特色ある3つの学科ができれば良いと思う。さらに将来的には観光学科を設置して川越市の特色である観光をテーマにした教育ができれば良いと思う。

いずれの場合でも、卒業時点で生徒達がどう育っているのかが重要であるので、その点を意識して今後も取り組んでいただきたい。

- 将来構想を考える上で一番大切なのは、市立川越高校の立ち位置を明確化することだと思う。市民の期待を考えると進学校を目指すことは否定しないが、市立川越高校の特色は、「学習と部活動の両立」と「歴史と伝統のまち川越にある唯一の市立高校であるということ」であると思う。

将来に向けた具体的な提案として、学習分野では、現在の一律・一斉・一方向の授業から、AIを活用することで、一人ひとりに適した多様な学習方法へと変化させるようなAI教育を、他に先駆けて積極的に導入することも一つの方法だと考えている。AI時代は好むと好まざるとに関わらず必ずやってくる。大学入試改革でも、今までの知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性が評価の対象となっている。企業でも、知識と自らの体験を横断的に組み合わせることで、新たな知を創造できる人材を求めている。このような時代の動きに対応するためには、AI教育を進めることが必要であり、結果的に進学率、就職率の向上や国際人としての人材の輩出にも繋がると思う。

また、教員の人事異動が少なく、固定化してしまっているということは大きな課題だと思うが、その中であっても、AI教育を進めることで、教師がコーチング等の機能も果たし、一人ひとりが輝き学べる環境を整えることができると思っている。若い教員の中にはAI教育に非常に興味を持っている方もいる。また、市内には民間人でAIに精通した指導者も沢山いると思うので、民間活用により対応していく方法もあると思う。

市立高校は県内に3校しかなく、その3校での人事異動はなかなか難しいと思うので、民間活用が重要になると思っている。民間人の積極登用により、競争原理が働くことで学校に活力が生まれる。

もう1点、部活動については、市立高校の強みだと思う。野球部が甲子園に出場した

り、女子バレーボール部がインターハイで活躍したりという実績があり、学校の特色になっている。市立川越高校の卒業生で、在学中に部活動で揉まれた生徒が、現在市内で多く活躍している。また、部活動の活躍は川越の名前を全国に広めることにもなり、市民もそれを望んでいる。今後は、市外から優秀な選手を集めることも積極的に進めていくべきだと思う。また、部活動でも民間活用により、コーチングができるような指導者を積極的に登用していくべきだと思う。

最後に、川越の伝統文化に対する深い理解と発信についてである。川越は観光都市なので、先人から受け継いだ歴史や文化に関する理解を踏まえ、将来都市像を実現するためにも、市立川越高校に観光学科があると望ましいと思う。ただし、進学先として期待される観光学科を持つ大学が少ないこと、就職が難しいだろうということもあり、残念ながら、観光学科の設置は難しいと思っている。このため、総合的な探究の時間を利用して、先人から受け継いだ歴史文化に対する理解を深めることや、国際人として活躍できる能力を高めていく指導ができれば良いと考えている。近年、飯能市のムーミンバレーパークとか所沢市のサクラタウン等など、若者を惹きつける場所が近隣の市町村にもできている。川越市も将来のことをしっかり考えていかないと、観光客も他市に移動してしまうと危惧している。市立川越高校の若い生徒が川越市の将来について考え、また、川越市の良さを全国に発信して行って欲しい。

- 質問だが、皆さんから市立川越高校の教師の人事交流が少ないことは課題だろうという話が出たが、5年ほど前から、県内の市立高校同士で人事交流をしようという動きがあると聞いていたが、実際にはやっていないのか。
- ◎ 研修の一環で川口市とさいたま市の市立高校と交流するというのを、2019年から実施できるようにしたが、現在までのところ希望者がいない。制度はあるが行われていないという状況である。
- 人事については、理念はあっても実現できないというのが現実だと思う。人事は校長人事と教員人事の2つに分けて考える必要があるが、教員については3校での人事交流にはあまり期待できないので、外部人材を取り入れていくことを考えた方が効率的だと思う。校長の場合は、強烈なリーダーシップを発揮できる人が良いと思うのでトップダウンで市として選任するということがあってもよいと思う。
- 「長期的ビジョン」には、商業学校としての伝統や実績を踏まえ、普通科に特化してしまうのではなく、商業系学科も残していくという考え方が書かれていたと思うが、皆さんの意見も概ね同じということで良いか。普通科に特化してしまった方が良いという意見はあるか。
- 今の生徒達が望んでいることは普通科なのだろうと思う。ただし、伝統校であるので商業科を残したいという卒業生達の気持ちもよくわかる。3学科のままでも良いと思うが、進学希望が多い中でこれまでどおりの商業科を持っていることが特色になるのかは

疑問である。

- 学校へのニーズは、卒業生、在校生、市民等でそれぞれに異なると思う。進学希望が多いので全て普通科にしてしまうという考えも確かにあるが、今までの市立川越高校の特色を失ってしまう危険性が大きいと思う。現在のニーズだけで全て普通科にしてしまうというのは適切ではないと思う。
- 例えば、店をつくる、会社を起こす、会社に関わりアイデアを出すという形で実社会と結びついていけるように、商業科の概念をこれまでとは変えなければいけないと思う。一方で、普通科も昔と比べると存在意義が大きく変ってきていて、大学に行くために知識だけを身に付ける場所ということではなく、いかに現実社会と関わりながら生きた知識をつけていくかという考えが重要になっている。市立川越高校は、普通科に特化するのか、逆に頑なに昔のイメージの商業科を残すのかという問題ではなくて、もっと本質的なところから考えなければならない。
- 3つある学科それぞれに特色があった方が良く思っている。市立川越高校に進学する生徒の中には、勉強に対してすごく意欲的というわけではなく、なんとなく大学に進学する生徒もいると思うが、世の中全体が大学に進学する傾向にあるのは事実である。このため、普通科に関しては、モチベーションを上げて高い目標を目指させるようにするという考えで良いと思う。商業系学科については、専門の学習に特化して勉強して、その方向で進学するとか、あるいは語学をすごく頑張っていて語学の短大に行くとかというような棲み分けがあってよいのかなと思う。
- ◎ 市立川越高校は特色を打ち出していかなければ、県立高校と同じになってしまうと思っている。市立川越高校の特色の一つとして実学教育があると思うので、私は普通科に特化する考えはない。高校生の時から、社会的、職業的自立に向けた準備を重視することが実学教育である。商業系学科では検定試験で高い合格実績を誇っている。新しい指導要領では、起業家教育、投資教育も取り入れられていて、市内の企業からも協力したいという依頼が来ている。そういうことに積極的に取り組んでいくことが強みになると思う。
- 進学を希望している状況は商業系学科も普通科とあまり差が無いという意味で進学を重視する必要があるという話をしたが、川越商業高校という伝統があり、商業系学科も成果を出しているなので、全て普通科にした方が良くまでは考えていない。
- ◎ 実学教育を行う中で、さらに勉強を深めたい場合には大学に進学できるような商業系学科があるという場合にも進学校として成立するのではないか。
- 川越市立の高校である以上、地域奉仕もしなければならないと思う。市内の私立高校でも、インターアクトクラブ等で、例えば川の清掃とか、老人ホームのお年寄りにクリ

スマスカードを送る等の活動を行っているが、市立高校であるからこそ、奉仕活動を市民のためにしっかり行うべきではないか。これは、特色としても学校の存在意義としても外せないものだと思う。これを成功させるためには、熱心な教師の指導が必要であるが、奉仕活動に熱心な市民は多くいるので、そういう方々と一緒に取り組んでいく方法もあると思う。

- 校舎の中だけを学校だと考えず、市内全体を学校だと考え、そこで実社会での学びと教室での学びが繋がっていくというイメージを持つ必要がある。市の観光課とタイアップして高校生の企画が実現するというように、街の中で市立川越高校生の姿が見えると良いと思う。川越市全体を大きな学びのフィールドだと考えることは市立高校でなければできないことだと思う。
- 川越市にあるというだけの学校から、様々な取組をひとつひとつ実践することで、市民に近い学校になって欲しいと思う。地域選抜はそのための人材育成という意味で大切だと思う。現在は定員全体の10パーセントの枠とのことだが、地域選抜の枠をもう少し柔軟に広げて、川越市の将来を担うような人材育成に取り組んで欲しい。
- 情報提供だが、千葉市立千葉南高校では千葉市をテーマにした探究活動を行っている。例えば、モノレールの利用者数を増やすにはどうしたらよいかということテーマにして生徒が活動している。このように、高校生の時から、少しずつ市民生活に繋がりを作っていくことも必要だと思う。
- ▲ 他に意見がなければ、以上とさせていただく。本日の会議の内容について、市長から総括をお願いしたい。
- 限られた時間であったが、大変積極的な様々な意見を頂戴できて大変有意義な意見交換ができたと思う。
本日いただいた意見を、市立川越高校の教育に生かしていきたい。ありがとうございました。

4 その他 特になし

5 閉会